

谷口 元 (たにくち・はじめ) 先生

一般社団法人日本音楽出版社協会 会長

【最終学歴】 米国 Belmont College, Commercial Music 学部卒業

【主要経歴】

- 1986年 8月 株式会社エイプリル・ミュージック(現 株式会社ソニー・ミュージックアーティスト)入社、出版部所属
- 1994年 10月 エイベックス・ディー・ディー株式会社(現 エイベックス・エンタテインメント株式会社)入社、国際業務担当部長
- 1995年 3月 株式会社プライム・ディレクション 取締役
- 1996年 7月 エイベックス・ディー・ディー株式会社 取締役
国際本部国際部長
- 1998年 7月 社団法人 音楽出版社協会 理事
- 2001年 10月 社団法人 日本音楽著作権協会 理事
- 2004年 6月 社団法人 音楽出版社協会 常務理事
- 2005年 4月 エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社
取締役 国際戦略室長 兼 知財戦略室長
- 2009年 11月 社団法人 音楽出版社協会 理事副会長
- 2010年 4月 エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社 代表取締役社長 (現職)
- 2010年 6月 社団法人 音楽出版社協会(現 一般社団法人 日本音楽出版社協会) 会長 (現職)
- 2010年 7月 財団法人 音楽産業・文化振興財団 理事
- 2010年 9月 財団法人 音楽産業・文化振興財団 副理事長 (現職)



〈講義概要〉

本講座の寄附団体のひとつである一般社団法人日本音楽出版社協会の会長であり、エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社の代表取締役社長谷口元氏が、著作権存続期間延長と国際環境について講義を行った。

講義ではまず、音楽出版社について例を用いながら分かりやすく説明し、関連する音楽著作権の定義や原盤権、著作権ビジネス、著作権法改正について詳しく解説した。また、音楽業界を構成する3業態の役割や消費者に音楽が届くまでの流れ、音楽産業の現状、JASRACについて詳細な資料を用いて説明し、学生に幅広い知識を示した。

続いて、重要な課題の一つである音楽産業の国際化について説明し、政府の知的財産戦略の概要や日本の音楽を海外へアピールする様々な取組みを紹介した。既に海外で浸透しているアニメ等に音楽を関連させて世界へ市場を拡大させるというような新たなビジネスモデルの構築が求められていることを示した。また、著作権存続期間について日本と他国を比較しながら説明し、今後のあり方と課題について言及した。

学生は音楽産業の実態について様々な角度から学び、今後の日本の音楽文化・産業がどのようにあるべきか、真剣に考える機会となった。

〈受講生の感想〉

日本の音楽を海外で展開するために、シンポジウムの参加など地道な取り組みをしているのを初めて知りました。日本の音楽産業の低迷は、違法ダウンロードが原因とばかり思っていたが、音楽以外の楽しみが増えてきたことも大きな理由で、人々の余暇の様々な場面に音楽を入れ込んでいくということが今必要なのだということがわかりました。

立命館大学・法学部・3回生

今回の講義で海外への著作権活動についても知ることができてよかったです。まだまだ違法ファイルは存在するし、それらをすべて処理するという事は難しいと思います。しかし、そんな違法ファイルの上に真の文学・学術・美術・音楽というものが存在できることを期待し、私たちも何かできたらいいなと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

プロダクションイニシアティブを図にすると、実はとても複雑化していると知った。音楽著作権存続延長に関しては、日本は世界の水準に合っていないと知り、今まで50年がいいと思っていたが、やはり全世界の音楽ファン、作曲、作詞家のためにも日本も著作権存続期間を延長しなければならないのかなと感じた。また、全ての人々が違法ダウンロードしない世になればいいと思う。

立命館大学・産業社会学部・2回生

CDが売れなくなった理由に、違法ダウンロードがあると知って、一人の自己中心的な考えが多くの人々（音楽会社やアーティスト）に迷惑をかけているのだなと思いました。音楽に限らず知的財産は貴重なものだという認識を持つべきだと私は思います。一人一人が正しい行動・態度を取り、著作権の存在の意味について考えることで日本経済が潤うこと、国際化（グローバル化）に繋がることを期待したいと思います。

立命館大学・産業社会学部・3回生

音楽を始めとする文化産業が国外へ輸出する国策等がある中、日本の著作権存続期間について見直すべきだと思いました。また、私たちが音楽を聴いて楽しむまでのプロセスを具体的に知ることができました。そして日本が著作権に関してどのような問題を抱えていて、今どのように問題に対して働きかけているのを知り、著作権について考えさせられました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

日本の文化が海外でも親しまれるようになり、日本でも様々な国の文化に触れる機会が増えた現在では、著作権の存続期間や著作権に関する考え方をもう一度見つめ直し、国際化にともない著作権の重要さをきちんと認識することが大切なことだと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

